



折り紙で遊んでいたある日。Aちゃんが急にうつむき加減になっていました。「どうしたの？」と声をかけましたが、目に涙を浮かべているだけで何も答えてくれません。(クラスの折り紙入れは空でした)

すると隣のクラスのB君「わかった！折り紙がほしんだよ！」C君「僕のクラスから持ってきてあげるね」と言い、二人は自分のクラスから折り紙をもってきてくれました。

B(使いかけの青折り紙を手にして)「はい、どうぞ」でもAちゃんのご機嫌は直りません。

C「待ってて」と走って取りに行き、戻ってきました。C(新しい青折り紙を手にして)「これが欲しかったんでしょ！」こっくりうなづくAちゃん。

D「お花はたくさんとったらだめなのよ。元の所に返してあげて」E「でも一度とったら戻せないんだよ」

この後どうなるかしらと見ていると……、D「いいこと考えた！だったら私に紫のお花を1つ、ちょうだいよ」

F「どのお花？」

みんなが「素敵！」と思う花束だったのですね。

険悪になりそうな場が、一気に変化しました。子どもの世界は面白いです。



初めての集団生活、3歳児は好きな遊びに夢中になって遊ぶようになってきています。その中で、「こうしたい」という思いが強くなり、友だちとぶつかり合ったり自分では解決できなかつたりして、悲しい思いをすることも増えてきました。

3歳児でも、言葉だけではなく表情やしぐさなどから、友だちの思いを汲み取ろうとしている姿に感動しました。思いやりの心が育まれつつあります。